

授業科目名	情報社会論Ⅱ	選択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目／教科に関する科目（情報）					
サブタイトル	高度情報化社会における諸問題	担当者	吉田 一雄			
講義概要	<p>【概要】いわゆる ICT 技術を前提とした高度情報化社会における諸問題を考察することとする。現在の最先端技術とそれをめぐる社会的問題および将来予想される状況について、取り扱われるトピックには粗密があることが予想されるが、受講者と自由に議論していきたい。</p> <p>【到達目標】一つ一つのテーマは、場合によって非常に高度の技術的専門性を必要とするものである。情報社会の大きな流れを理解し、よりよく活用していくことができるための素地を築くことが当面の目標であり、次いで、それぞれの関心あるテーマにつき確信を伴った姿勢で取り組んでいくことができれば十分に満足できる成果といえるだろう。</p>					
履修条件	大学の PC の ID を利用可能としておくこと。 (また、2 年次生の希望者にも履修を認める。)					
教科書・参考書	<p>【教科書】なし</p> <p>【参考書】なし（随時紹介する）</p>					
授業回数	内容					
1	導入、および情報化社会論Ⅱの取り扱い対象					
2	コンピュータの歴史（1）メインフレームからパソコンまで					
3	コンピュータの歴史（2）インターネット					
4	コンピュータの歴史（3）パソコンからネットワーク・コンピュータ、クラウドへ					
5	コンピュータの歴史（4）携帯電話の発達史とスマートフォン					
6	IT から ITC へ					
7	情報の共有と、コピーライト（およびコピーレフト）					
8	放送と通信（地デジ化の意味）					
9	通信の自由の意味とスパムメール					
10	トレイサビリティー					
11	ブロードバンド・インフラの機能					
12	電子マネーと決済手段					
13	Web2.0 とは何か？（ブログ、ツイッター、SNS など）					
14	情報セキュリティと、インターネット上の規制					
15	まとめと復習					
評価方法	期末試験のみを評価対象とする。（希望者にはレポートに代えて差支えないが、第一回授業で申し出た者に限る）					
評価基準	高度情報化社会において、何が行われているか理解し、対応できる水準を「A」、場合により対応できる水準を「B」、一般的理解にとどまる水準を「C」、理解が不十分な水準を「D」、全く無理解を「E」とする。					
その他	内容的に非常に多岐にわたるので、理解のためには出席を要する。また社会環境の変化により、シラバス内容の入れ替えがある。					